

大洋が30周年

積極的に業容拡大

総合解体工事業の㈱大洋(水戸市千波町1-9-5)は、星文佳代表取締役社長は、今日(19日)に創業30周年を迎えた。従来の解体工事に加え、汚染さ

れた土地の浄化対策、不動産の再生事業にも積極的に取り組む。同社は企業による保有資産の見直しが進むと見えて、不動産再生の需要が高まると判断。2012年11月に不動産事業を開始した。顧客の利益につながる具体的な施策を用いて迅速に不動産を再生・流通させることで、「不動産価値の最大化」および「キャッシュフローの最大化」の表現をアシストする。活用しに

くい遊休資産を優良不動産に仕上げ、有効活用の提案から売買仲介やリースまで行う。同社では、解体工事に付随する土壌汚染対策・アスベスト対策・ダイオキシン対策などすべての環境対策工事の施工が可能。建物解体と土壌汚染対策を同時に請け負う事業者は全国でも少数。環境リスク工事の一括受注により窓口の一本化、工期の短縮やコストの圧縮などの効果が見込まれる。

工場も本格稼働。同社の勝山純至常務は「不動産再生のスキームをパッケージ化し、コストキャッチ・手間がかからないワンストップサービス強化する」と話す。今後のさらなる需要の拡大に備え、営業体制を強化し顧客のニーズに応えていく。

1983年6月1日設立。資本金5000万円。ISO9001認証取得。これまで全国に大規模な再開発や空海関連施設などを解体した実績がある。14年6月期の売上高は40億円。